

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年11月9日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300735		
法人名	有限会社 あおいとり		
事業所名	グループホーム あおいとり	ユニット名	A棟
所在地	〒311-0134 茨城県那珂市飯田2388-5		
自己評価作成日	平成24年5月1日	評価結果 市町村受理日	平成24年11月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873300735-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873300735-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年7月13日	評価確定日	平成24年10月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>基本理念を職員全員が共有し、利用者様が楽しく、そして穏やかに過ごして頂けるように支援していきます。</p> <p>日常生活…利用者様一人ひとりの能力に応じた役割を担って頂き、また趣味に応じた行事等を取り入れ、無理なく刺激を感じながら日常生活を楽しんで頂きます。</p> <p>食生活…自家生産の野菜や果樹を豊富に使い、各人に合わせた食事の提供をします。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>献立は職員が作成し、近隣からのお裾分けや自家菜園で収穫した旬の野菜を豊富に取り入れ、利用者のほか職員も食事が楽しめるよう量や味付けに配慮している。</p> <p>月1回近隣の洋菓子店に買い物に出かけてスイーツを食べる日としており、利用者と職員が共に生活を楽しむことができるよう工夫をしている。</p> <p>利用者一人ひとりの外出の要望を聞き、できる限り実現できるように職員で調整を図りながら個別に支援をしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	従来からの基本理念及び地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、掲げるとともに、管理者や職員は、朝礼・職務の中で理念を確認し共有している。	前回の外部評価結果を受け、職員で話し合っ て「地域の一員として」や「地域の中で」などのキーワードを加え、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作成している。 管理者と職員は各ユニットの居間に掲げられている理念を毎日の朝礼時に唱和して共有を図り、具体的なケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員や利用者は、散歩中に近隣の人々と挨拶を交わすなど顔見知りの関係を築くとともに、季節の野菜を頂いたり、地域のお祭りや敬老会に参加するなどで交流している。	利用者は職員と一緒に日常的に散歩に出かけ、近隣住民と会話をしながら野菜を分けてもらったり、地区の夏祭りに参加した際には事業所で開催する敬老会に訪問してもらえるように地域住民に声かけをし、参加を得ている。 小学生の夏休みに子どもボランティアを4回程受け入れており、利用者は子ども達と一緒におやつ作りや書道、歌を歌うなどしている。 週2回回想法を取り入れながら症状の緩和を図る傾聴ボランティアを受け入れており、利用者は楽しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア、学生の体験学習などの受け入れを通し、グループホームの在り方を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者の家族等、区長、民生委員、地域包括センター職員、市職員参加のもと、2か月に1回実施している。会議では利用者の生活状況を報告するとともに、地域の行事や研修、利用者の家族から出た意見や要望等について話し合っている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民で2ヶ月に1回開催している。 会議では地域の清掃活動に職員と利用者も参加したい意向を伝えているほか、委員から地区の祭りの日程を早めに知らせてもらっている。 委員から、地区の「女性防火クラブ」が開催する消防署によるAED講習会の情報を得て職員が受講するなど、運営推進会議を活かした取組をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市役所に出向く際は、担当者にホームの様子を報告し意見を求め、アドバイスを得ている。	職員は市に出向き空室状況を報告するなど日頃から協力が得られるような関係づくりをしており、入居者を紹介してもらうなどの協力を得ている。 地域包括支援センター主催の勉強会に積極的に参加しているほか、サービス担当者会議に地域包括支援センター職員の参加を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者・職員は身体拘束することで利用者が受ける弊害を理解するとともに、話し合いながら身体拘束をしないように努めている。職員は常に利用者に目配りし、玄関や庭のフェンスに施錠はしていない。	管理者は身体拘束排除に関する外部研修を受講するとともに全職員に報告し、認識を共有するよう取り組んでいる。 利用者が自由に出入りができるよう玄関や窓は施錠しておらず、職員はいつでも付き添えるよう見守りをしている。 やむを得ずベッドを柵で囲むケースがあったが、身体拘束の必要性を家族等と話し合ったり、書面で同意を得るまでには至っていない。	やむを得ず身体拘束をする場合には、医師の意見を踏まえて家族等と話し合っ必要を確認するとともに、家族等の同意を得ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を利用し、活用している。 ホーム内には閲覧しやすい箇所にポスターを貼り付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を利用し、活用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、契約書・重要事項説明書への記載・押印をお願いしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情受付担当者、及び第三者機関（那珂市介護長寿課・国民健康保険団体連合会）の苦情受付窓口を明記している。職員は家族等の訪問時に話を聞くことを心掛けるとともに、出た意見をその都度職員で話し合っている。苦情等があればその都度記録するようにしている。	家族等には入居時や運営推進会議開催時、普段の面会時などで気軽に意見や要望を出してもらうよう働きかけている。傾聴ボランティアを受け入れ利用者の思いを受け止めてもらうとともに、報告や提案を受け職員で話し合っ運営に活かすよう努めている。家族等から家族会立ち上げの提案を受けたり、療養食に偏らない食事提供の要望があり、運営に反映させているが、記録に残すまでには至っていない。	利用者の意見や要望を記録するとともに、家族等の来訪時に面談をした際に出た意見等を記録し、職員で共有することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務時間内に10～30分ではあるが、職員間の意見を聞く場を設け、場合によっては後日まとまった時間をもって会議を行い、記録にとっている。	管理者は職員がいつでも気軽に意見を出したり、提案や相談ができるような雰囲気づくりに努めるとともに、出た提案等を運営に反映させている。利用者の外出希望を聞いた職員は管理者に相談するとともに、行き先や時間、外出手段等について意見を伝え、具体的な支援ができるよう努めている。月1回スイーツを食べる日を設けるなど、職員と利用者が一緒に楽しめるような行事の提案を実現させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・責任者が、職員の話をよく聞き、職員のストレスを緩和する取り組みをしている。また、職員同士で気付いたところを、その都度指摘しつつ、常々業務への向上に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し、勉強会などで、研修内容の発表を行っている。また、管理者は指導・助言をしており、定期的な勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	お互いの職員の訪問時や外部研修などの機械で、意見交換しつつ、業務に反映させている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の相談に関しては、本人・家族・支援者等関係者それぞれの意向を、なるべく集まった形で、客観的に聴く機会を多く設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の相談に関しては、本人・家族・支援者等関係者それぞれの意向を、なるべく集まった形で、客観的に聴く機会を多く設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	あくまで、本人の気持ちを重視しつつ、関係者それぞれが「無理のない」形でサービス利用できるように対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大変な時には利用者が職員に労わりの言葉を掛けて下さる。高齢者は人生の先輩なので、教えられる場面は多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係も基本的には良好に保たれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者は知人の訪問でゆっくり会話したり、利用者が長年行き続けた理美容院に継続して通うなど、これまでの人間関係や馴染みの場所との関係を断ち切らないよう支援している。	入居時に家族等から話を聞き、利用者の生活歴を把握するように努めている。 行きつけの理・美容院や商店、馴染みの場所への外出を職員や家族等が支援をしている。 利用者は墓参りや知人の葬儀に家族等と一緒に参列している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で関わりを持つことで、生活意欲に反映できる場面も多い。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	元利用者の家族の訪問も多い。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者が自分の思いを伝えることが困難な場合には、表情や行動などから、思いや意向を把握するように努めている。	利用者本位のサービスを提供するため入居時のアセスメントにおいて、利用者が元気な頃からの趣味や通い慣れた馴染みの店、会いたい人などを利用者や家族等から聞き取り、思いや意向の把握に努めている。 利用者の言葉にならない思いなどは、日々の支援の中で表情や態度から気付いたことを連絡帳や日報に記録し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や要望など情報収集には家族を必ず交えている。アセスメントには日常会話の中で見え隠れしている訴えに目を向け、本人の希望や意向の把握に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や要望など情報収集には家族を必ず交えている。アセスメントには日常会話の中で見え隠れしている訴えに目を向け、本人の希望や意向の把握に繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「本人の意向」「家族の意向」との形で情報を分けている。「本人の言葉」にも留意しつつ、種々の情報をプランに反映させている。期間設定はあくまで目安とし、見直しの必要性が生じた時点で、プランの変更を図っている。	介護計画は利用者や家族等から聞き取った思いや要望を取り入れて管理者が作成した介護計画案を基に、職員が参加する担当者会議で話し合っって作成している。 介護計画は要介護認定更新時に見直しているが、この1年間においては状態が変化した利用者はいなかったため、期間の途中で変更や見直しをするケースはなかった。 介護計画は利用者や家族等の同意を得ているが、モニタリングの記録を作成するまでには至っていない。	利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方を話し合い、利用者や家族等の同意を得ているので、その内容が実施されているかを確認するために、利用者一人ひとりの実態にそったモニタリングシートを作成し、日々のケアの中で記録することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録として、身体状況・朝昼夕の過ごし方を具体的に記録している。それをもとに、統一されたケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大まかな予定は組んでいても、日々の状況等により柔軟な支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物・散歩・外食など、当たり前の暮らしができるように近所と顔見知りの関係を作る働きかけをしている。また、必要に応じて、市内各サービス事業者との情報交換を図りつつ、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は家族等や職員の支援を受けながら、かかりつけの医療機関で受診するとともに、受診結果は職員や家族等で報告し合い、共有している。	利用者と家族等が希望する入居前からのかかりつけ医への受診を職員や家族等が付き添っているほか、協力医療機関より週2回の訪問診療を受け入れており、全ての利用者が適切な医療を受けられるように支援している。 受診結果は家族等に口頭で報告しているほか、家族等が受診に付き添う場合には利用者の日頃の様子を伝えるなど、スムーズに受診ができるよう配慮している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は確保している。基本的には看護職員を中心にして、適宜、対応へ指示を仰いでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が頻繁に面会に行き、医療機関との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「終末期の意向確認書」、終末期には「看取り介護同意書」を作成し、利用者や家族の意向を把握するとともに、家族等には状況に合わせて意向確認書の更新を促している。看取り介護実施状況を作成し、職員や医療機関、家族等の役割を明記している。	入居時の早い段階において、重度化した場合の事業所としての対応方針を家族等に説明し、意向を確認しながら同意を得ている。 終末期ケアを開始する場合には家族等と面談し、事業所でできることとできないこと、医療サービスとの連携を説明している。 利用者の状態の変化によって段階毎に意思確認をしている。 看取りのマニュアルを作成しているが、定期的な職員研修や勉強会、会議を実施するまでには至っていない。	現在終末期の利用者はいないが、全職員が看取りに関する内部研修や外部研修を定期的受講し、看取りに向けた体制づくりに取り組むことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会に出席したり、定期的に研修を実施するなど、職員全員が応急手当を行えるよう学習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消防訓練は年2回定期的実施している。昨年の震災時には地域住民から井戸水を提供していただくなど便宜を図っていただいた。また、災害時に備え、発電機・備蓄品を確保し、リストを作成し、備蓄品の管理も行っている。	年2回消防署立会いを含め、火災を想定した避難訓練を実施しているが、夜間を想定した避難訓練を実施するまでには至っていない。 近隣住民に避難訓練への参加を運営推進会議を通して呼びかけているが、協力体制を構築するまでには至っていない。 避難訓練の実施記録を作成するとともに、次回の訓練に活かせるよう課題の改善に向けて話し合っている。 前回の外部評価結果を受けて備蓄品のリストを作成し、全職員が把握できるよう改善するとともに、備蓄品は分散して保管するよう工夫をしている。 3日分の飲料水や米、乾パン、乾麺、切もち、レトルト食品、缶詰、電池、ろうそく、懐中電灯、携帯ラジオ、発電機などを備えている。	全職員が安心して夜間勤務ができ、就寝中の利用者の命を守るためにも夜間想定した避難訓練を実施することを期待する。 災害時における近隣住民との協力体制構築のため、避難訓練に粘り強く参加を呼びかけるほか、運営推進会議に合わせて避難訓練を実施するなど、日頃から支援が得られるような取り組みを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の人格を尊重しつつ、支援している。利用者とのなじみの関係を築きつつも、呼称には留意している。	呼称に注意し、「〇〇さん」と敬意を払った呼びかけを心がけるとともに、利用者の気持ちを尊重した声かけをするように努めている。 管理者が個人情報保護に関する外部研修を受けて、その後全職員と情報の共有を図るために研修資料を回覧している。 利用者個人のファイルは鍵のかかる机の引き出しに保管し、責任ある取扱いと管理をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が安心できる生活環境を作れるように一人ひとりに合わせた声掛け、スキンシップを心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴・趣味等についての情報は入所時に家族から教えていただき、記憶の中で一番鮮明な部分を把握してケアに活かすようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度来てもらう美容師に好みに合わせてカットしていただく。自己決定出来る方には、自由に行わせているが、サポートが必要な方については、その人らしいお洒落に気遣っている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が日々楽しみにしている食事に力を入れている。自家菜園で出来た旬の野菜を多く使う献立を作成するとともに、おかずは目でも楽しむことが出来るよう小鉢に分けている。食材の下ごしらえや、梅干しなどの保存食も利用者の経験を活かしながら作っている。	利用者の好みを把握しながら職員が独自の献立を作成し、野菜の殆どを自家菜園で収穫した物で賄っている。 利用者は食事の準備や野菜の下ごしらえ、後片付けなどできることは役割を担って取り組んでいる。 職員は利用者と一緒に同じ食事を摂り、会話をしながら楽しく食事ができるよう支援をしている。 スイーツを楽しむ日を設け、購入する菓子を利用者や職員で相談して買い物に出かけるなど、食事が楽しみなものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調や状態によって、バランスを考えた献立を作り、大まかな摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは入居者本人に任せているが、困難な方は状況に合わせて職員が対応している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の状態に合わせてリハビリパンツやパッド、オムツに使用を検討するほか、排泄チェック表を活かし、時間を見計らってトイレ誘導をしている。	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、排泄のタイミングを計りながらトイレに誘導し、自立した排泄ができるよう声かけや介助に努めている。 職員はおむつ使用の利用者がリハビリパンツや布パンツ使用に改善できるよう、適切な排泄支援に取り組んでいる。 トイレは車いす対応で広く、介助が必要な状況でも排泄の自立に向けた支援ができるよう工夫している。 トイレまで間に合わないなど、利用者一人ひとりの状態に応じて居室でポータブルトイレが利用できるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	芋類・ヨーグルトなどを食事やおやつに取り入れ、便秘予防の取り組みの一つとしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴回数や時間帯は利用者の希望に沿って、体調を確認しながら支援している。	現在のところ午前中に入浴を希望する利用者がいないため、午後の時間帯に毎日入浴ができる体制となっている。 体調不良により入浴ができない時でも、最低週2回は入浴ができるように支援をしている。 現在は入浴が苦手な利用者はおらず、皆が楽しく入浴ができるよう湯船に浸かりながら歌を歌ったり、柚子湯などで季節を感じながら入浴を楽しめるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に合わせて、適宜、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個人の処方箋ファイルに綴じており、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時には、本人に手渡しをし、確実に内服できているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じた役割を持っていただき、出来る力を最大限に発揮できる場面作りをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者は、散歩や買い物、外食、ドライブ等に出かけ、気分転換を図っている。	利用者一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて墓参りや美容院、レストラン、図書館、買い物など、希望にそった外出ができるよう家族等の協力を得ながら個別に対応している。 日常的な散歩やドライブで気分転換を図っているほか、季節ごとに花見や海、湖などに出かけ、積極的に外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方は、職員が管理しているが、外出時にはお金を渡し、ご自身で買いたいものを選んでいただき、支払っていただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実際に電話が来た際には、本人と代わり、やり取りしていただいている。手紙のやり取りに関しても、必要に応じて、投函する手助けなどを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に大きな茶箆筥や神棚があり落ち着いた雰囲気になっている。暑すぎず冷えずぎないように空調機を利用して温度を調節している。玄関には利用者の手作りの作品を展示したり、庭にはベンチ・テーブルを置き、利用者が自由にくつろげるよう工夫している。	共用空間は完全バリアフリーとなっており、利用者が自由に行動しても安全のように配慮している。 各ユニットに空気清浄器を設置し、消臭と感染症予防を図っている。 居間にピアノや茶箆筥を置いたり観葉植物を飾っているほか、ベンチやテーブル、ソファ、椅子を設置し、利用者が思い思いの場所で寛ぐことができるように工夫している。 各ユニットの壁面には利用者や職員で制作した季節に合わせた折り紙の作品が飾られており、ユニット毎の特徴が感じられ、居心地のよい空間づくりをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いたり、中庭に自由に出ることが出来るように配慮している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に利用者が使い馴染んだダンス・テーブル・椅子を置いたり、写真等を飾り、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。			利用者は自宅で使い慣れた家具や電化製品を持ち込んでいるほか、家族等の協力を得ながら家族の写真や絵、カレンダー、鉢植え、ぬいぐるみ、自作の手芸品などを飾り、居心地よく寛げるような空間づくりをしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて空間の調節を行っている。全体的な設備は入居者の目線に合わせており、手すりの配置は勿論、浴槽には立ち上がりしやすいように椅子を用意したりの工夫を行っている。			/

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあおいとり

作成日 平成 24年 11月 7日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		やむを得ず身体拘束をする場合、家族等から書面で同意を得るまでには至っていない	同意書を作成し、書面で同意を得る	現在はやむを得ず身体拘束を行っている利用者様はいないが、今後の為に同意書を作成し、その都度家族等から書面で同意を得る	既に実施済
2		家族等からの提案や要望を運営に反映させているが、記録に残すまでには至っていない	記録簿の作成	家族等からの提案や要望を記録し、職員で共有する	6ヶ月
3		モニタリングの記録を作成するまでには至っていない	モニタリングの作成	利用者様一人ひとりの実態にそったモニタリングシートを作成する	既に実施済
4		重度化や終末期に関する職員研修を実施するまでには至っていない	研修に参加する	マニュアルに沿った内部研修を行う。又、外部研修にも積極的に参加する	6ヶ月
5		夜間を想定した避難訓練を実施するまでには至っていない	夜間を想定した避難訓練の実施	年2回の消防署立会いの避難訓練の他、夜間を想定した避難訓練を実施する	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。